

2024 年 11 月 28 日所長会見 所感

- 本日、私からは3点お話しさせていただきます。
- 1点目は、7号機の特定重大事故等対処施設に関する、設計及び工事計画認可の、4回目の申請についてです。お手元の公表資料をご覧ください。
- テロ対策施設であることから、具体的な内容は差し控えさせていただきますが、申請は、機械・電気設備に関するものが中心となります。
- 今後、規制庁の審査に真摯に対応していくとともに、詳細工程を精査のもと、着実に工事を進めてまいります。
- 2点目は、6号機の安全対策工事に関する工程についてです。
- これまで、第四次総合特別事業計画における、料金算定上の仮置き工程として、燃料装荷時期を2024年12月、原子炉起動にあたる、制御棒引き抜き時期を2025年2月、営業運転開始時期を2025年4月、と記載していました。
- 2024年9月に設工認の認可をいただいて以降、工程を精査する中、燃料装荷までの工事工程に見通しが立ったことから、燃料装荷予定日を2025年6月10日として記載し、本日の午後、使用前確認変更申請を行う予定です。
- なお、制御棒の引抜については、地域の皆さまのご理解あつてのことであり、以降の工程を現時点で見通すことが出来ないことから、「未定」と記載する予定です。
- 今後、安全対策工事を進め、燃料装荷後の健全性確認が終われば、7号機と同様に、技術的には起動の準備が整うこととなります。

- 安全最優先で、何かあれば、一つひとつ確認のもと、安全対策工事と使用前事業者検査を進めてまいります。
- 7号機に続き、6号機についても再稼働が出来る準備を整え、東日本全体における電力供給の安定化に、6・7号機一体となって貢献してまいりたいと考えております。
- 3点目は、コミュニケーション活動についてです。11月24日に行った、小千谷のコミュニケーションブースに、新潟本社代表の橘田とともに、説明者として参加しました。
- ご来場いただいた方からは、様々な訓練、フィルタベントを含めた安全対策など、緊急時の備えについて、詳しく話を聞けて安心したといったお言葉をいただきました。
- また、エネルギー問題は難しい問題ではあるが、原子力も上手に使っていくべき、原子力について、より多くの方が関心を持つべき、との声もいただきました。
- 12月7日、8日には長岡においてコミュニケーションブースを行う予定で、7日には原子力・立地本部長の福田も説明者として参加する予定です。
- 引き続き、一人でも多くの方に当発電所の取組や日本のエネルギー状況などを、丁寧にお伝えしてまいりたいと思います。
- また、地域の皆さまはもちろんのこと、様々な方が発電所にご関心をお持ちいただいていると感じており、そうした中、先日もエマニュエル駐日米国大使や、経団連の皆さまにご視察頂きました。

- 経団連の皆さまと意見交換の中で、「百里に行くものは、九十九里をもって道半ばとす。」との精神で取り組むことの重要性や、これまで首都圏の電力を支えてきた柏崎市、刈羽村をはじめとする、新潟県への感謝のお言葉などを、いただいております。
- そして、地元理解をもって、早期の再稼働を実現することへの期待とともに、様々な方に発電所を直接見てもらう機会を、一層増やすことが重要ではないか、といったご示唆もいただきました。
- 今後も、県内のみならず、首都圏などの電力消費地の方々にも、直接、発電所の取組をみていただく機会を増やしてまいりたいと考えております。
- 引き続き、様々な手段を通じて、6号機の状況も含め、発電所の安全対策などの取組を、しっかりとご説明をしてまいります。
- 本日、私からは以上です。